



CQM(超短期経済予測モデル)

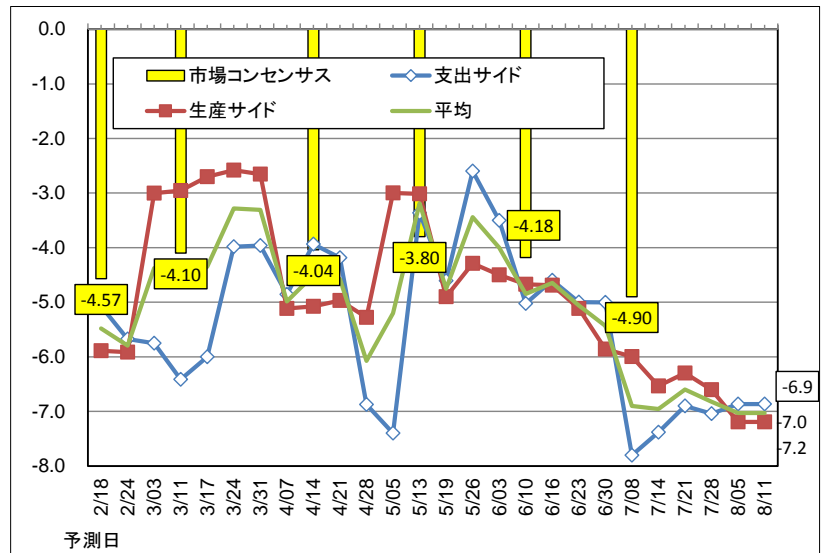
稲田義久 (APIR 数量経済分析センター長)  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail: inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2014年8月11日)

## ポイント

- ▶今回更新されたデータは、7月の景気ウォッチャー調査、6月の景気動向指数、情報サービス業売上高及び国際収支状況である。これらは、民間企業設備及び純輸出の予測値に影響を与える。
- ▶6月の景気動向指数をみると、景気の基調を判断するための一致指数の3カ月移動平均は3カ月連続の下降。7カ月移動平均は17カ月ぶりの悪化となったが標準偏差内にとどまった。このため内閣府は景気の基調判断を「足踏みを示している」と3カ月連続で評価を据え置いた。
- ▶6月の経常収支は-3,991億円と5カ月ぶりの赤字に転じた。貿易・サービス収支の赤字幅が拡大し、第一次所得収支の黒字幅が縮小したためである。
- ▶今週(8/11)の超短期モデル(支出サイド)は、4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率-6.9%と予測。先週のから変化なし。実質民間企業設備が幾分上方修正されたが、実質純輸出が小幅下方修正されたため。13日に4-6月期GDP1次速報値が発表されるため、今回が最終予測。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2014年4-6月期(%, 前期比年率換算)



### <4-6月期実質成長率の最終予測は前期比年率-6.9%>

今回更新されたデータは、7月の景気ウォッチャー調査、6月の景気動向指数、情報サービス業売上高及び国際収支状況である。これらは、民間企業設備及び純輸出の予測値に影響を与える。

6月の景気動向指数(CI:速報値)をみると、景気の基調を判断するための一致指数の3カ月移動平均は前月から1.76ポイント低下し、3カ月連続の下降。7カ月移動平均は17カ月ぶりの悪化となったが振幅が標準偏差内にとどまった。このため内閣府は景気の基調判断を「足踏みを示している」と3カ月連続で前月の評価を据え置いた。

7月の景気ウォッチャー現状判断指数(DI)は前月比+3.6ポイント上昇し51.3となった。3カ月連続の改善となり、横ばいを示す50を4カ月ぶりに上回った。先行きに対する判断DIは前月比-1.8ポイント低下し51.5となった。2カ月連続の悪化だが、横ばいを示す50を4カ月連続で上回った。

6月の経常収支は-3,991億円と5カ月ぶりの赤字に転じ、前年同月から7,767億円悪化。貿易・サービス収支の赤字幅が拡大し、第一次所得収支の黒字幅が縮小したためである。季節調整値の経常収支は1,256億円と3カ月連続の黒字となったが前月比-67.3%減少。結果、上半期の経常収支は-5,075億円となり、2期連続の赤字となった。

今週の支出サイドモデルは、4-6月期の実質GDP成長率を前期比-1.8%、同年率-6.9%と予測。先週の予測から変化なし。実質民間企業設備の予測値が幾分上方修正されたが、実質純輸出の予測値が小幅下方修正されたためである。4-6月期は、純輸出(前期比+0.7%)が拡大に転じるが、内需が駆込み需要の反動で大きく縮小(前期比-2.5%)する。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690